

第1 平成22年の気象概況

1 平成22年(2010年)の気象の特徴

(1) 概況

前年(平成21年)12月から2月までの冬を通じての平均気温は平年より高くなったが、強い寒気が流れ込み気温が平年を下回った時期もあるなど気温の変動は大きくなった。特に12月中頃から1月中頃は強い寒気が流れ込んで冬型の気圧配置が強まり、気温が平年より低く経過した。一方、1月下旬から2月上旬と2月下旬は南から暖かい空気が流れ込み、季節外れの暖かさとなった。特に2月下旬は統計開始以来最も気温が高く、記録的な高温となった。

3月から4月上旬にかけては、低気圧が本州付近をほぼ数日おきに通過し、低気圧や前線の影響を受けたため曇りや雨、雪の日が多くなった。4月中旬から下旬は、この時期としては強い寒気が断続的に流れ込んだため曇りや雨の日が多く、気温が平年よりかなり低くなった。5月は低気圧や前線の影響を受けて曇りや雨の日が多く、特に下旬は降水量が平年よりかなり多くなった。

6月は、梅雨入り前までは高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。梅雨期間中は梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多く、6月下旬には太平洋高気圧の縁をまわる湿った気流の影響で前線の活動が活発となり、大雨となった日もあった。また、7月中旬には上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、非常に激しい雨が降り大きな災害が発生した所があった。梅雨明け後は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、8月上・中旬は、台風第4号や湿った気流の影響で、曇りや雨の天気となった。各地とも気温が高くなり、特に8月は県内のほとんどの観測所で、「月平均気温の高い方から」の極値を更新した。

9月のはじめは猛暑日(日最高気温が35度以上の日)となった日が多く、厳しい残暑となった。中旬は台風第9号や前線の影響で雨の降った日もあったが、太平洋高気圧の勢力が強くなり晴れの日が多くなった。

9月下旬から10月上旬にかけては、天気は数日の周期で変わった。10月中旬は高気圧に覆われて概ね晴れた。下旬は気圧の谷や前線と寒気の影響で、曇りや雨の日が多くなったが、9月、10月ともに気温は高くなった。

11月は移動性高気圧が本州付近を通ることが多かったため、降水量が平年より少なく、日照時間は平年よりかなり多くなった。また、12日から15日にかけて広島で11月としては5年ぶりに黄砂を観測した。

12月は中旬から下旬にかけて、冬型の気圧配置となることが多かった。特に12月下旬には、上空に強い寒気が流れ込んだため、北部を中心に大雪となった。また、広島では9日に初冠雪：極楽寺山(平年は12月8日)、16日に初雪(平年は12月9日)、25日に初氷(平年は12月9日)を観測した。

(2) 平均気温

年平均気温は、府中・福山・大竹で平年よりかなり高く、庄原・世羅・東広島・広島・生口島・呉で平年より高く、三入で平年並となった。

広島・呉・福山・高野・三次・庄原・大朝・加計・世羅・府中・東広島・廿日市津田・竹原・生口島・大竹では、8月に観測した月平均気温が「月平均気温の高い方から」の極値を更新した。

また、福山・大朝・生口島では、8月に観測した日最高気温が「日最高気温の高い方」から極値を更新した。

(3) 降水量

年降水量は、高野・庄原・東城・王泊・甲田・世羅・志和・倉橋で平年より多く、上下・三入・府中・東広島・福山・広島・生口島・大竹・呉で平年並となった。

呉・世羅・倉橋では、8月に観測した月降水量が「月降水量の少ない方から」の極値を更新した。

また、庄原では、7月に観測した日最大1時間降水量が「日最大1時間降水量」の極値を更新した。

(4) 日照時間

年間の日照時間は、府中・生口島で平年よりかなり多く、三入・世羅・大竹・呉で平年より多く、東広島・福山・広島で平年並、庄原で平年より少なかった。

府中・生口島で、年間日照時間が「年間日照時間の多い方から」の極値を更新した。

また、府中・竹原・生口島で、8月に観測した月間日照時間が「月間日照時間の多い方から」の極値を更新した。

2 平成22年の各月の気象概況

【1月】 前半は冬型の気圧配置が続き、寒気の影響を受ける。

上旬 冬型の気圧配置となることが多く、南部では晴れる日があったが、北部では雲が広がり雪や雨が降った。

中旬 初めは日本海を低気圧が通過した後、中頃にかけて冬型の気圧配置となり、雪の降る日があった。13日は冬型の気圧配置となった影響で、高野で38センチ、八幡で30センチの降雪（積雪差の日合計）を観測した。終わりにかけては、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

下旬 天気は数日の周期で変わった。中頃までは気圧の谷が通過した後、冬型の気圧配置となった。

月平均気温 東広島・生口島・大竹で平年より高く、油木・三入で平年より低く、その他は平年並となった。

月降水量 高野で平年より多く、倉橋で平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。

【2月】 気温の変動が大きく、下旬はかなりの高温。

上旬 初めに日本海を低気圧が通過した後、中頃まで冬型の気圧配置が続いた。終わりにかけては低気圧や前線の影響を受け、曇りや雨の日が多かった。

中旬 天気は数日の周期で変わった。低気圧が通過した後、冬型の気圧配置となり、北部を中心に雪の降る日があった。

下旬 前半は高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、後半は前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。

月平均気温 各地で平年より高いか、かなり高かった。

月降水量 八幡・王泊で平年より少なく、高野・庄原・大朝・甲田で平年並、その他は平年より多いか、かなり多かった。

【3月】 多雨で寡照。13日、16日、21日に黄砂を観測。20日にソメイヨシノが開花。

上旬 低気圧や前線と寒気の影響を受けて、曇りや雨の日が多かった。9日から10日にかけて、前線を伴った低気圧が四国沖を発達しながら通過した後、冬型の気圧配置となったため、総降水量は王泊で62.5ミリ、内黒山で58.0ミリ、加計で57.5ミリ、佐伯湯来・倉橋で55.5ミリを観測した他、県内全域で25～50ミリ程度の総降水量となった。また、南部の所々でも雪が降り積雪となった他、北部では9日に大朝で28センチ、高野で27センチの降雪（積雪差の日合計）を観測した。

中旬 天気は数日の周期で変わった。低気圧や前線が通過した後、13日と16日には広島で黄砂を観測した。また、20日にはソメイヨシノが平年（3月29日）より9日早く、昨年（3月22日）より2日早く開花した。

下旬 気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多かった。23日は前線を伴った低気圧が四国沖に進んできた影響で、日降水量は八幡で30.5ミリ、内黒山で29.0ミリ、三次で28.0ミリ、王泊で27.5ミリを観測した他、県内全域で20～25ミリの日降水量となった。また、21日には広島で黄砂を観測した。

月平均気温 三次・庄原・油木・加計・三入・広島で平年並、その他は平年より高かった。

月降水量 各地で平年より多いか、かなり多かった。

【4月】 低温、多雨、寡照。2日にソメイヨシノが満開。27日、28日、30日に黄砂を観測。

上旬 初めと終わり頃は、低気圧や南からの湿った気流の影響で曇りや雨となったが、その

他の日は概ね高気圧に覆われて晴れる日が多かった。1日は山陰沖の前線を低気圧が東北東進した影響で、日降水量は道後山で65.5ミリ、廿日市津田で58.0ミリ、高野で54.0ミリ、三入で43.0ミリを観測した他、県内全域で5~40ミリの日降水量となった。また、2日にはソメイヨシノが平年（4月5日）より3日早く、昨年（4月5日）より3日早く満開となった。

中旬 気圧の谷や低気圧の影響を受けて、曇りや雨となる日が多かった。11日から12日にかけては、気圧の谷や前線を伴った低気圧が四国の南岸を通過した影響でまとまった雨となり、総降水量は廿日市津田で100.5ミリ、志和で92.0ミリ、安宿で86.5ミリを観測した他、県内全域で40~80ミリ程度の総降水量となった。

下旬 高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、低気圧や前線と寒気の影響で曇りや雨となる日もあった。22日は前線を伴った低気圧が四国の南岸を通過した影響でまとまった雨となり、日降水量は高野で56.5ミリ、道後山で56.0ミリ、大竹で54.0ミリを観測した他、県内全域で25~50ミリの日降水量となった。また、27日と28日及び30日には広島で黄砂を観測した。

月平均気温 各地で平年より低いか、かなり低かった。

月降水量 各地で平年より多いか、かなり多かった。

【5月】 気温の変動が大きく、下旬は大雨。

上旬 前半は高気圧に覆われて晴れたが、後半は低気圧や前線の影響で曇りや雨となる日もあった。4日は加計で今年はじめて真夏日（日最高気温が30度以上の日）となった。

中旬 初めと終わり頃は、気圧の谷や前線、南からの湿った気流の影響で曇りや雨となったが、その他の日は高気圧に覆われて晴れた。18日から19日にかけて、四国沖の前線や南からの湿った気流の影響で、総降水量は廿日市津田で68.0ミリ、大竹で65.0ミリ、志和で58.5ミリ、広島で55.5ミリ、三入で50.5ミリを観測した他、県内全域で15~45ミリ程度の総降水量となった。

下旬 前半は低気圧や前線の影響を受けて、曇りや雨となったが、後半は高気圧に覆われて概ね晴れた。22日から24日にかけて、前線を伴った低気圧が発達しながら西日本を通過した影響で、総降水量は廿日市津田で164.5ミリ、道後山で144.0ミリを観測した他、県内全域で60~140ミリの総降水量となった。

月平均気温 三入・生口島で平年よりかなり低く、高野・三次・大朝・油木・世羅・広島で平年より低く、その他は平年並であった。

月降水量 高野・三次・庄原・八幡・大朝・王泊・加計・世羅・竹原・生口島で平年並、その他は平年より多かった。

【6月】 13日ごろ、中国地方が梅雨入り。下旬は梅雨前線の影響で大雨。

上旬 高気圧に覆われて晴れたが、上空の寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨となる日もあった。1日は上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、県内の所々で雷を伴った雨が降り、甲田で17時40分までの1時間に34.5ミリ、大朝で16時00分までの1時間に31.0ミリの降水量を観測した。7日は気圧の谷の影響を受けて、県内の所々で10ミリを超える日降水量となった。

中旬 低気圧や前線の影響を受けて、曇りや雨となる日が多かった。15日は四国沖の梅雨前線を低気圧が東進した影響で、日降水量は呉で81.0ミリ、東広島で64.0ミリを観測した他、県内全域で20~60ミリの日降水量となった。18日は四国付近に停滞する梅雨前線を低気圧が東進した影響で、日降水量は福山で59.5ミリ、内黒山で51.5ミリ、廿日市津田・生口島で45.5ミリ、竹原で43.5ミリを観測した他、県内全域で10~40ミリの日降水量となった。

なお、中国地方は13日ごろに梅雨入り（平年6月6日ごろ、昨年6月3日ごろ）した。

下旬 梅雨前線の影響を受けて、曇りや雨となる日が多かった。特に、26日から27日にかけては、日本海沿岸に停滞する梅雨前線の活動が活発となり、梅雨前線に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響で大雨となり、総降水量は三入で173.0ミリ、庄原で159.5ミリ、甲田で156.0ミリ、志和で152.0ミリ、佐伯湯来で149.5ミリを観測した他、県内全域で35~140ミリの総降水量となった。

月平均気温 三入で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。
月降水量 高野で平年より少なく、甲田で平年より多く、その他は平年並となった。

【7月】 中旬は梅雨前線の活動が非常に活発化し、16日に庄原市で大雨。17日ごろ、中国地方は梅雨明け。

- 上旬 寒気を伴った気圧の谷や梅雨前線の影響で曇りや雨となる日が多かった。3日は日本海を低気圧が東進し、夜に前線が中国地方を南下した影響でまとまった雨となり、日降水量は本郷で73.0ミリ、高野で59.0ミリ、府中で58.0ミリ、東城で57.5ミリ、呉市蒲刈で57.0ミリ、君田で56.5ミリを観測した他、県内全域で10～55ミリの日降水量となった。
- 中旬 前半は西日本に停滞する梅雨前線の影響で大雨となる日があった。後半は太平洋高気圧に覆われて概ね晴れた。11日から14日にかけて、西日本に停滞する梅雨前線に向かって南から湿った空気が流れ込んだため、前線の活動が活発となり、総降水量は多い所で450ミリを超える大雨となった。特に、前線が中国地方を南下した12日未明から明け方にかけては、八幡では02時49分までの1時間に51.5ミリ、王泊では03時12分までの1時間に50.0ミリの非常に激しい雨を観測し、甲田では04時50分までの1時間に48.5ミリの激しい雨を観測し、ともに7月の日最大1時間降水量の極値を更新した。また、16日は南からの暖かく湿った気流と上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となった。庄原では17時43分までの1時間に64.0ミリの非常に激しい雨となり、日最大1時間降水量の極値を更新した。なお、中国地方は17日ごろに梅雨明け（平年：7月20日ごろ、昨年：特定せず）した。
- 下旬 高気圧に覆われて概ね晴れたが、上空の寒気や強い日射の影響で大気の状態が不安定となり、雷雨となる日があった。また、日中の気温が高く、猛暑日となる所があった。
- 月平均気温 三入・広島・竹原・生口島で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。
月降水量 高野・八幡・大朝・生口島で平年並、その他は平年より多いか、かなり多かった。

【8月】 記録的な高温、少雨。県内のほとんどの所で、月平均気温の高い方からの極値を更新。

- 上旬 太平洋高気圧に覆われて概ね晴れたが、南から湿った空気が流れ込み、上空の寒気や強い日射の影響で大気の状態が不安定となり、雷雨となったところがあった。
- 中旬 前半は台風第4号や日本海の前線の影響で、曇りや雨となった。後半は太平洋高気圧に広く覆われ、晴れて気温の高い日が続き、猛暑日となったところがあった。特に、19日には福山で日最高気温が38.3度となり、日最高気温の極値（従来の第1位は、1942（昭和17）年7月24日の38.2度）を、大朝で日最高気温が34.7度となり、日最高気温の極値（従来の第1位は、1994（平成6）年8月6日の34.2度）を更新した。
- 下旬 太平洋高気圧に覆われて概ね晴れたが、湿った気流や強い日射の影響を受け、雨や雷雨となった所があった。特に30日は大気の状態が非常に不安定となり、道後山では17時24分までの1時間に50.5ミリの非常に激しい雨を観測し、佐伯湯来では16時54分までの1時間に45.0ミリ、東城では16時36分までの1時間に34.5ミリの激しい雨を観測した。また、気温の高い日が続き、猛暑日となる所が多かった。特に、27日には生口島で日最高気温が36.2度となり、日最高気温の極値（従来の第1位は、1994（平成6）年7月16日の36.0度）を更新した。
- 月平均気温 各地で平年よりかなり高かった。
月降水量 高野・東城・油木で平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。

【9月】 気温はかなり高く、残暑が厳しかった。7日、台風第9号が山陰沖を通過。

- 上旬 中頃に台風第9号の影響を受けて雨が降ったが、その他の日は太平洋高気圧に覆われ、晴れて気温の高い日が続いた。また、9月の日最高気温の極値を更新したところが多かった。
- 中旬 高気圧に覆われて概ね晴れたが、気圧の谷や前線の影響を受け、曇りや雨となる日があった。また、気温の高い日が続き、真夏日となる所が多かった。
- 下旬 初めは前線や湿った気流の影響で、終わり頃は低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨となったが、その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れた。22日から23日にかけては、中国地方を南下した前線の影響で、総降水量は多い所で80ミリを超えるまとまった雨と

なった。特に、22日には府中で17時47分までの1時間に41.5ミリの激しい雨を観測した。また、23日には内黒山で03時52分までの1時間に38.0ミリ、三入で04時51分までの1時間に35.0ミリ、府中で06時34分までの1時間に33.0ミリの激しい雨を観測した。27日は低気圧の影響を受けて、日降水量は呉市蒲刈で58.5ミリ、東城で56.0ミリを観測した他、県内各地で30～50ミリ程度の日降水量となった。

月平均気温 各地で平年よりかなり高かった。

月降水量 府中で平年より多く、高野・東城・上下・世羅で平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。

【10月】 26日から27日にかけて冬型の気圧配置となった影響で、北部の一部で積雪。

上旬 天気は数日の周期で変わった。3日は日本海の低気圧からのびる寒冷前線が中国地方を通過した影響で、庄原で18時47分までの1時間に38.0ミリ、君田で17時58分までの1時間に30.0ミリの激しい雨を観測した。8日から9日にかけては、気圧の谷や低気圧の影響を受けて、総降水量は東城で66.0ミリ、油木で57.5ミリ、内黒山で54.5ミリ、呉市蒲刈で52.5ミリを観測した他、県内各地で35～50ミリ程度の総降水量となった。

中旬 弱い気圧の谷や四国の南海上の低気圧の影響を受けて曇りとなった日もあったが、高気圧に覆われて概ね晴れた。

下旬 気圧の谷や前線と寒気の影響で、曇りや雨となる日が多かった。26日から27日にかけて、冬型の気圧配置となった影響で、北部の一部では積雪となった。

月平均気温 各地で平年より高いか、かなり高かった。

月降水量 三入・広島で平年より少なく、東城・八幡・生口島で平年より多く、その他は平年並となった。

【11月】 12日から15日にかけて、黄砂を観測。この時期に黄砂を観測したのは5年ぶり。

上旬 初めと終わり頃は冬型の気圧配置となる日が多く、北部を中心に曇りや雨の日があったが、南部では概ね晴れた。また、7日は気圧の谷の影響で、県内全域で雨が降った。中頃は高気圧に覆われて晴れた。

中旬 前半は気圧の谷の影響を受けて、曇りや雨となったが、後半は高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いた。14日から15日にかけては、気圧の谷が通過した後、冬型の気圧配置となった影響で、北部を中心に曇りや雨となったが、南部では概ね晴れた。また、12日から15日にかけて広島で黄砂を観測した。

下旬 高気圧と気圧の谷や前線の影響を交互に受け、天気は数日の周期で変わった。22日は四国の南海上を東進する低気圧や日本海を南下する前線の影響を受けて、日降水量は呉市蒲刈で30.5ミリ、倉橋で26.5ミリ、本郷で24.5ミリを観測した他、県内各地で5～20ミリの日降水量となった。

月平均気温 府中・福山・竹原・生口島・大竹・呉で平年並、その他は平年より低かった。

月降水量 倉橋で平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。

【12月】 下旬の終わりごろ、強い冬型の気圧配置となった影響で、北部中心に大雪。9日に広島で初冠雪（極楽寺山）、16日に初雪、25日に初氷を観測。また、3日に黄砂を観測。

上旬 高気圧と気圧の谷の影響を交互に受け、天気は数日の周期で変わった。9日は冬型の気圧配置となり、上空に強い寒気が流れ込んだ影響で、北部を中心に雪や雨となり、八幡では31センチ、高野で11センチの積雪となった。また、3日には広島で黄砂を観測した。なお、9日は広島で初冠雪：極楽寺山（平年は12月8日）を観測した。

中旬 冬型の気圧配置となることが多く、南部では晴れる日があったが、北部では雲が広がり雨や雪が降った。15日から16日にかけて、冬型の気圧配置が強まり、八幡で25センチ、高野で8センチの積雪となった。なお、16日に広島で初雪（平年は12月9日）を観測した。

下旬 冬型の気圧配置となることが多く、上空に強い寒気が流れ込んだため、北部を中心に大雪となった。特に、30日は日本海と四国沖を低気圧が発達しながら通過した後、強い冬型の気圧配置となった影響で、高野で47センチ、八幡で44センチ、大朝で35センチの降雪（積雪差の日合計）を観測した。なお、25日に広島で初氷（平年は12月9日）を観測した。

た。
月平均気温 三入で平年より低く、東広島・福山・生口島で平年より高く、その他は平年並となった。
月降水量 各地で平年よりかなり多かった。

注：高野・三次・大朝・油木・加計・廿日市津田・竹原は、1月から2月にかけての施設改修工事により欠測期間が生じたため、統計を求める対象となる資料が許容する資料数を満たさないことから、月（年）平均気温・月（年）降水量・月（年）間日照時間が求められなかった。